

Umidasプロジェクトについて



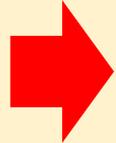
令和6年11月13日
愛南町 海業推進室



11/6の運営委員会の議論

(10/30の振り返り)

- 岩手視察報告
- 一般社団法人キタ・マネジメントの取組紹介
- Umidas(仮称)について
- 11/13全体会について



Umidasについて、
議論は十分か？
法人化ありき？
誰が担うのか？

これまでの議論を
振り返る必要！！



そこで

- 事務局からこれまでの議論の振り返り
 - 高橋委員から提供資料の説明
- ↓
- 教育からの貢献にも注目してほしい
 - 「ぎょしょく」教育の説明

↓

• 「ぎょしょく」教育とツーリズムとの両輪で地域愛と地域活性化を図る方向で合意
 (Umidas(仮称)は具体的に何を担うのか、「ぎょしょく」の詳細を知りたい..etc)

↓

• 本日、全体会後の運営委員会にて「ぎょしょく」レクチャーを実施



海業（うみぎょう）とは：

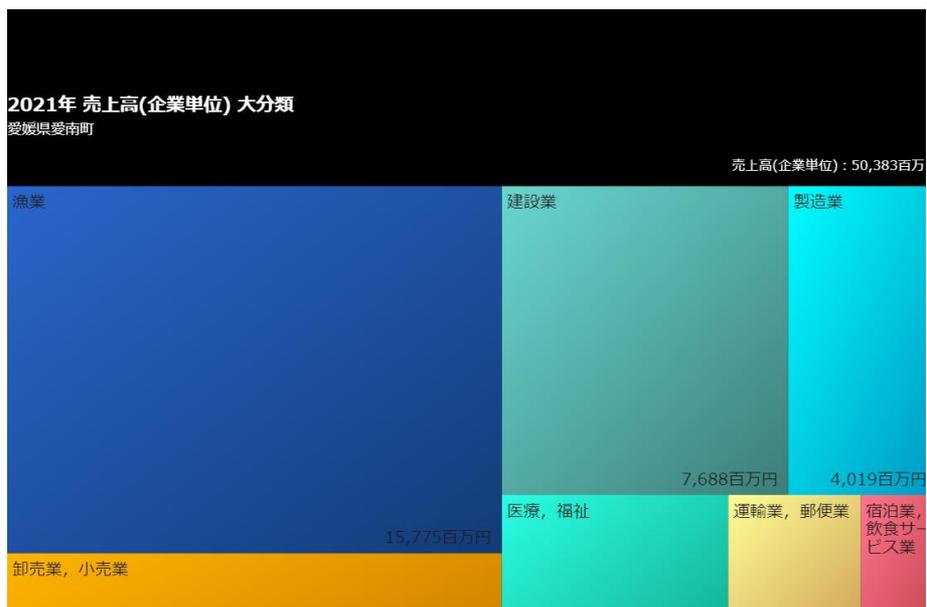
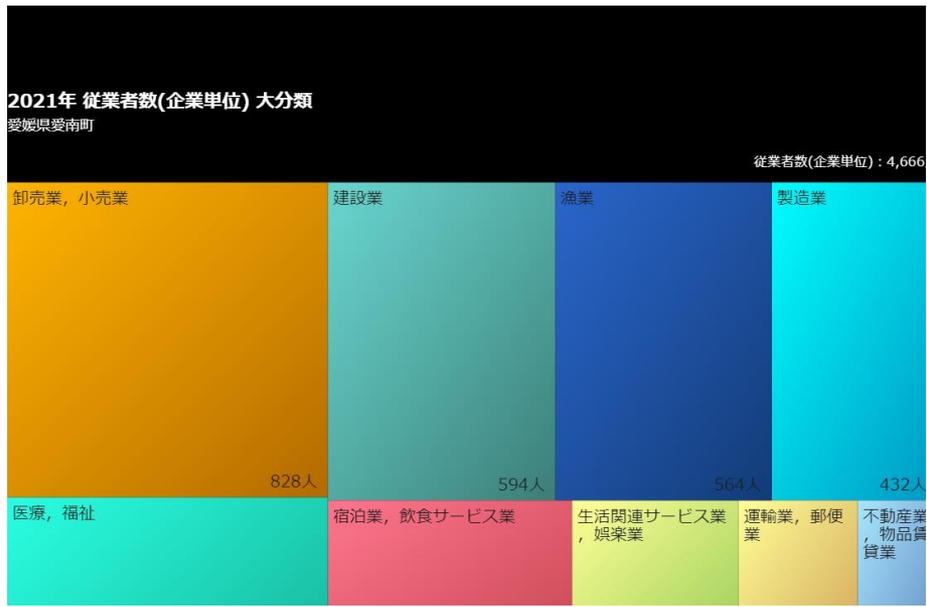
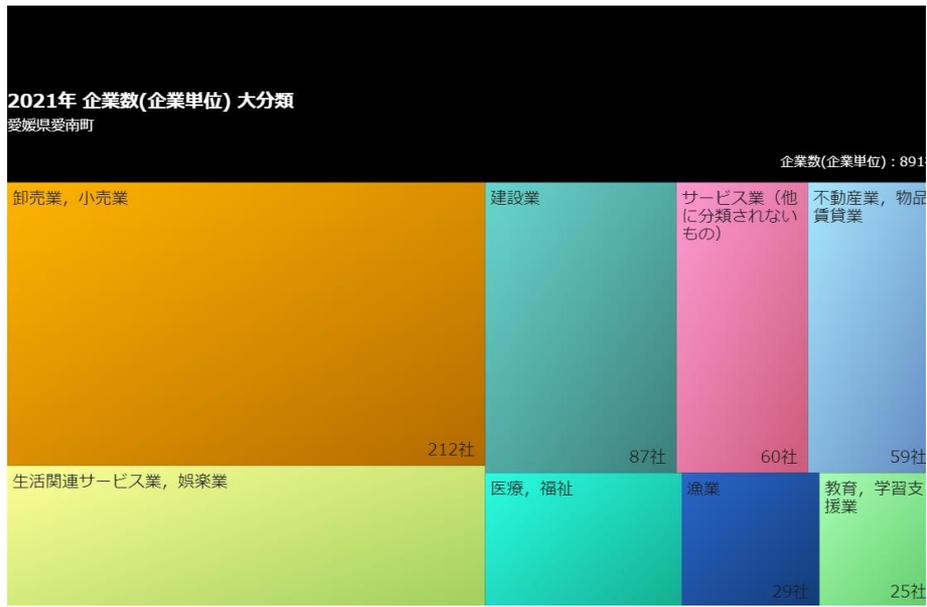
海や漁村の地域資源の価値や魅力を活用する事業であって、
国内外からの多様なニーズに応えることにより、
地域のにぎわいや所得と雇用を生み出すことが期待されるもの

『漁港漁場整備長期計画』より引用





愛南町内の漁業・養殖業の地位



企業数 29社/891社 3.3%

従業者数 564人/4,666人 12.1%

売上高 15,755百万円/50,283百万円 31.3%

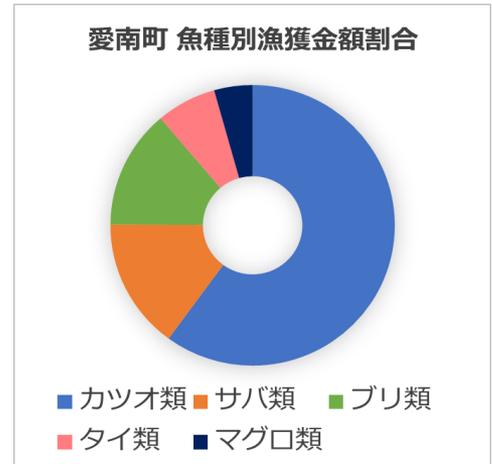
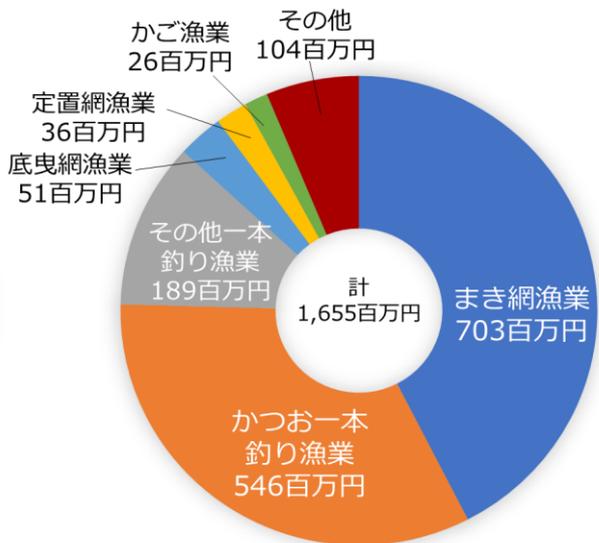
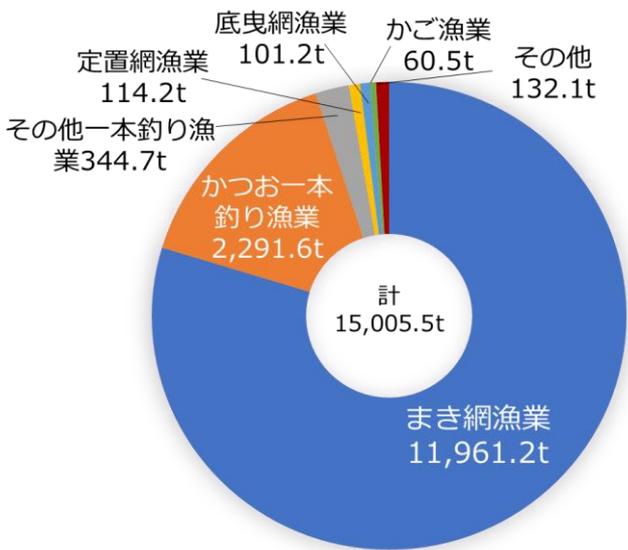
RESAS産業構造マップより (2018年データ)



愛南町の漁業・養殖業

漁業の概要

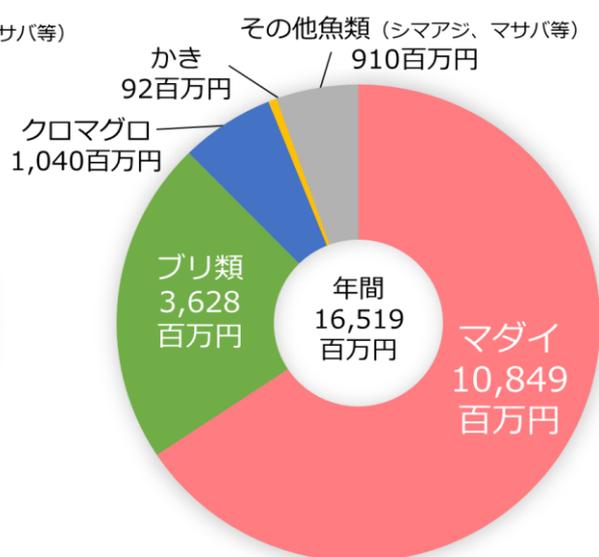
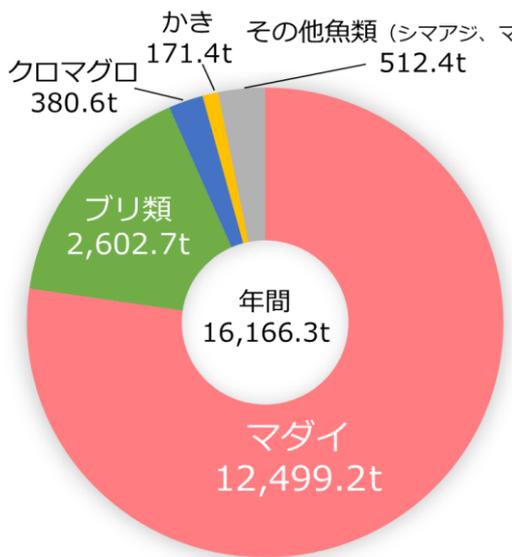
※愛南漁協業務報告書（2022年4月～2023年3月）、久良漁協業務報告書（2023年1月～2023年12月）から愛南町作成



※港勢調査（2022年）から愛南町作成

養殖業の概要

※港勢調査（2022年）から愛南町作成（円グラフからは真珠母貝、真珠養殖を除く）



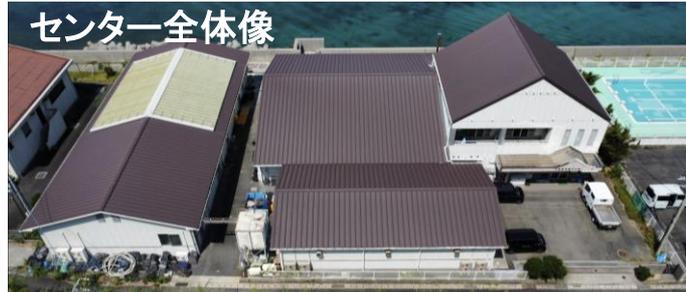
養殖種類	生産量(トン)	生産金額(千円)
マダイ	12,499	10,849,306
ブリ類	2,603	3,628,164
クロマグロ	381	1,039,799
かき	171	92,385
その他の魚類 (シマアジ、マサバなど)	512	909,510

※この他、真珠母貝、真珠、その他貝類等あり



海洋資源開発センター

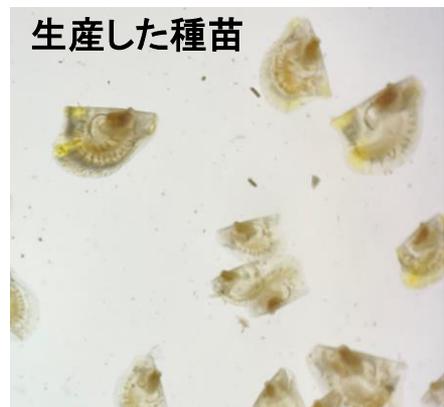
- H.3 ● **海洋資源開発センター設立**
・愛南町の海域でアコヤガイの天然採苗が不安定になる。
→人工種苗生産や養殖技術支援を目的に設立
- H.4 ●
- H.6 ● **アコヤ貝の人工種苗生産に成功**
- H.13 ● **赤変病に耐性がある貝の開発を開始**
・赤変病によりアコヤガイの大量斃死
→県や漁協と連携し、死なない貝の開発へ
- H.22 ● **赤変病に耐性がある貝の開発に成功**
→「耐性貝」と命名
→翌年には、耐性貝と中国貝を交配種「耐性交雑貝」を生産
→天然種苗から人工種苗への転換期に
- R.元 ● **新たな病気に耐性がある貝の開発を開始**
・原因不明の病気に由来稚貝が大量死
→令和4年に原因種が明らかに(ビルナウイルス)
→開発されたPCR検査法を導入し、定期的に検査して生産者への注意喚起を実施
→これまでのノウハウを活用し、死なない稚貝の開発へ



センター全体像



種苗生産の様子



生産した種苗



耐性貝の真珠

品名	個数	平均直径	平均重量
真珠	70	32.3	3.3
真珠	29		
真珠	1		
計	100	47.8	3.3
品質評価率		70.0%	
品質評価率		47.8%	

当センターで生産した貝は**病気に強い**だけでなく、**高品質の真珠が生産**されるため、高評価を得ている。
(農林水産大臣賞を何度も受賞)



「ぎょしょく」活動 ～7つのぎょしょく～

★第6回食育活動表彰 消費・安全局長賞受賞（令和4年度）



魚職 とる漁業(カツオの一本釣り体験)

カツオの水揚げ量が四国1位の深浦漁港があり、実際に使用している釣竿を用いて釣りの疑似体験を行い漁師の大変さや漁船やカツオについて学ぶ。



魚触 魚にさわる

愛南町で水揚げされた魚に実際に触れる体験を設け、魚に対する興味や関心、親近感を感じてもらう。



魚色 魚の特色(写生)

本物の魚の色や形、大きさなど目で見て観察し、描いてみて、魚の特徴を掴み新たな発見に気付いたり興味を持つための教育。



魚殖 育てる漁業(養殖場見学)

愛南町は養殖業が盛んなため、実際に養殖場に行き、養殖業者から生産や流通に関して学び、魚を育てる大変さや仕事に対する熱意を知ってもらうための教育。



魚食 魚の味(調理実習)

地元で水揚げされた魚を用いて調理実習を行うことで魚本来の味を知り、地元の魚の美味しさに気付いてもらう。また、実際に魚を捌く体験により、興味や関心を持ってもらう。



その他 **魚飾** 魚の伝統文化、**魚植** 魚をめぐる環境





愛媛大学南予水産研究センターの開設（H20.4.1～）

（愛南町役場西海支所内）
船越ステーション



平成20年4月1日～
（旧西海町庁舎の有効利用）

（愛南町地域産業研究・普及センター内）
西浦ステーション



平成25年4月1日～
（旧西浦小学校の有効利用）

【研究内容】～レジデント型研究教育の実践～

- ① 漁場環境の研究
- ② 養殖魚の生態に関する基礎研究
- ③ 水産物の普及・販売・流通に関する研究
- ④ 水産人材の育成



● 事業実施内容の具体化・精緻化

- 海業推進会議・同運営委員会の枠組みを拡大して、関係団体・組織の集合のもと、
 - ・ 設立準備委員会(本会議)及び
 - ・ 同作業部会(ワーキンググループ)を組織し、事業性を評価しながら、具体的な実施内容の検討を進める。

● 組織化の推進

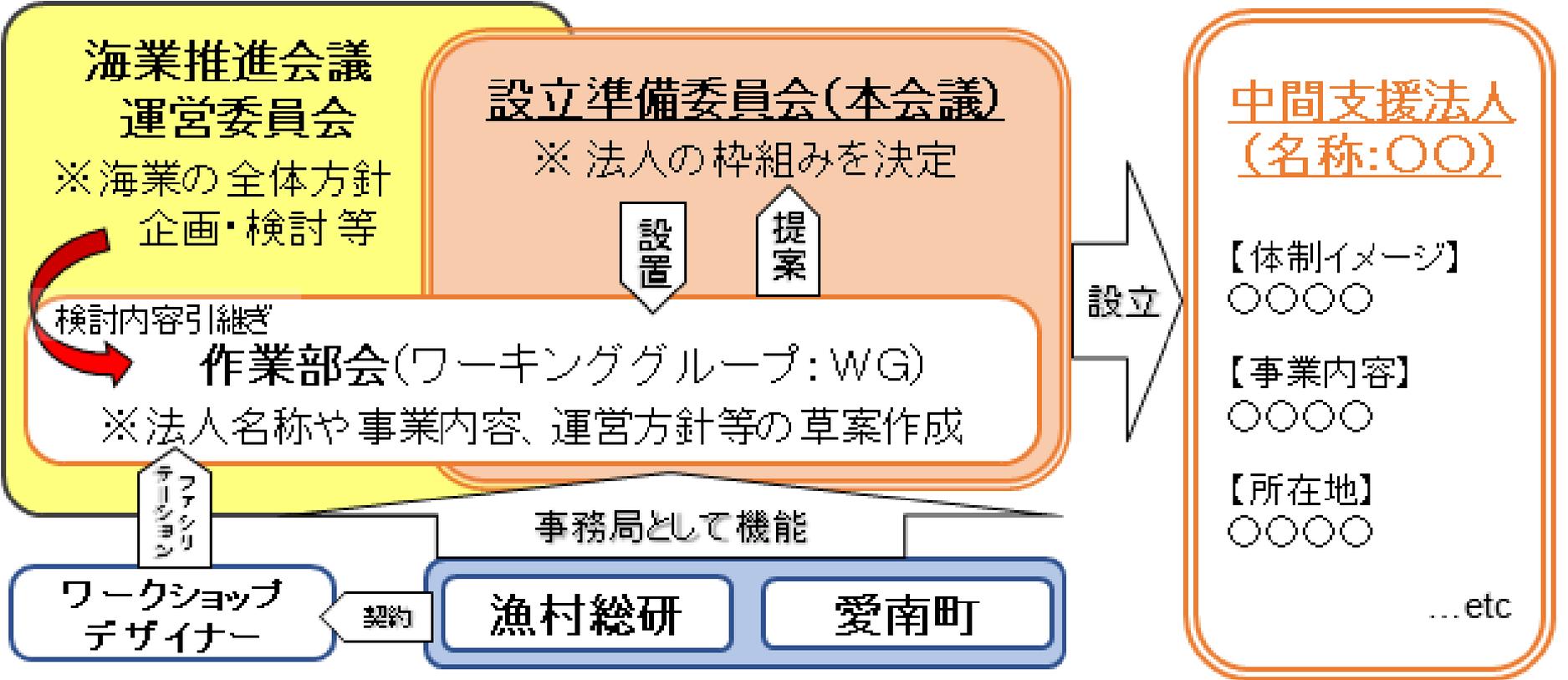
- 中間支援事業の実施主体として活動し易くするため、法人格の取得に必要な議論を加速する。(名称、設立目的、活動基準、定款事業内容、事業詳細、組織体制、経営計画等)
- 併せて、人財・運営資金の確保を進める。(国や県等の補助金、会費、寄附金など)



- ・ **来年2月を目途に中間支援法人の立ち上げ、事業開始を目指す**



検討体制（想定）





スケジュール (想定)

